

甲南病院瓦版

狭心症について

循環器科

川浪 二郎 医師

心臓は冠動脈という血管から血液の供給を受けています。冠動脈が主に動脈硬化により狭窄し血流が滞ってしまい胸痛を引き起こしてしまう病気を狭心症と言います。

原因は高血圧、糖尿病、高脂血症といった生活習慣病や肥満、喫煙、ストレスなども一因となります。典型的症状としては階段や坂道を登ったり、重いものを運んだりして心臓に負荷をかけると胸部の中央から左全体にかけて圧迫感、絞扼感、痛み、息苦しさ、冷や汗などが出現します。なかには歯や顎、左肩に放散する痛みが出現する場合があります。動脈硬化だけではなく冠動脈の痙攣が原因で一時的に血流が滞ることでおこる冠攣縮性狭心症というタイプもあり、心臓突然死の原因となる怖い病気でアジア人に多い狭心症です。典型的症状として運動時ではなく、夜間就寝時から朝方にかけて狭心症症状が出現します。

狭心症の検査にはおおまかに心臓カテーテル検査、冠動脈CT、核医学検査、運動負荷心電図、24時間心電図があり、当院では核医学検査を除いて全て施行可能です。

上記のような症状が御本人、御家族、お知り合いにいましたら受診され精査をお勧めいたします。

2021年1月25日記